

# 県民意見交換会の概要 主な意見の抜粋

## 開催実績

9/23 (土)	次世代につづく中山間地域での学びづくりとは	11/14 (火)	教員の理想とする、これからの長野県での学びとは
10/18 (水)	子どもの居場所と学びの継続について	12/6 (水)	私たちが考える理想の「学びの環境」とは
10/25 (水)	中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方	1/17 (水)	教員の魅力と私たちが考える教育の未来

## 県民意見交換会后にいただいた意見等

随時	ホームページ上の回答フォーム等により応募
----	----------------------

1

## 第1回 「次世代につづく中山間地域での学びづくりとは」

実施日程	9月23日(土) 13:30~16:30
場所	根羽村役場やまあいホール
参加者 計：31名	・信州学び円卓会議委員2名 大久保委員、三輪委員 ・一般参加者29名(教員、高校生、保護者等)

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

中山間地域の学びに関する思いや課題について意見交換をしました

地域資源を活用した学びを生み出す

- ・村全体、地域全体を学びの場にしていきたい
- ・子ども達が中山間地域の良さ、課題に目を向ける学びが大切

小規模校ならではの強みを活かす

- ・少人数で学ぶことによる自立心や主体性の向上
- ・複式学級を活用した異年齢での学びへの挑戦をする
- ・子どもや教員がやりたい自由なカリキュラムの設計

学びにかかわる大人のリテラシー向上

- ・親が余裕をもって子どもの学びについて考え、選び取ることが大事
- ・多様な学びに取り組む人の思いやその取り組みがうまく周りに伝わらない

子どもを中心とした関係機関との連携推進

- ・山村留学の目的を地域が正しく理解して連携することが重要
- ・公営塾と学校が連携して地域の学びを担うことが必要

年齢の偏りがある教員配置や短い在任期間

- ・幅広い年齢層の教員による教育環境が重要
- ・学校長、教員が短期間で異動してしまう
- ・中山間地の学びを支えるためのへき地手当の待遇改善等が必要

中山間地域の学習資源、機会、交友関係の少なさ

- ・学びの場の選択肢の少なさによる通学や金銭的負担
- ・山村留学は、短い期間で同級生が変わり、子どもの精神的負担も大きい

2

## 第2回 「子どもの居場所と学びの継続について」

実施日程	10月18日（水）13:00～17:00
場所	松本市勤労者福祉センター3F 3-3会議室
参加者 計：50名	・信州学び円卓会議委員2名 荒井委員、竹内委員 ・一般参加者48名（フリースクール等子どもの居場所関係者、保護者、教職員組合、町議会議員、行政職員）

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

「今、困っている子どもたち、保護者のためにできること」、「居場所、フリースクールの持つ可能性」、「信州型フリースクール認証制度を活かした協働の在り方」について意見交換をしました

居場所・学びを「選べる」価値観の浸透	・今困っていない保護者や生徒を含めて、学校に行かなくても大丈夫、という価値観を広げる
子どもの居場所、学びの環境づくり	・自分の好きなことを見つけられる、安心安全で社会とのかかわりがあり、見守る大人がいる環境が大事
関係機関との連携強化	・フリースクールを教員の研修の場として活用し、学校との相互理解が進められないか ・学校、フリースクール関係者、保護者、行政等が連携し、もう一歩踏み込んで話せる場が重要 ・学校以外の学びの場・支援機関を世間は意外と知らないため、情報にアクセスできる環境が必要
学校の教員の悩みや負担に対する支援	・授業中に席を立ってしまう子や自由に動きたい子を見た時に、本当は自由にさせたいと思うが、それを許してしまうと社会や周りから批判されてしまう ・教員の負担を軽減するために、複数担任制や少人数学級が必要
フリースクールの運営にあたっての問題	・フリースクールを創りたいという想いがあるが、財政的にできない ・学校と民間、団体と団体などをつなぐ役割を担う人、団体が少ない ・団体にも保護者にも経済的負担等への支援が必要
高校入試やその後の学びのあり方	・出席数と成績の関係、内申書を重視する入試制度は見直してもいいのではないかと ・在籍校や高校入試の際の適切な評価につながる仕組みはできないか
公民館等既存の施設や機会の活用推進	・公民館がたくさんあることを活かして、その中に居場所を作ってもいいのでは ・学校の中でも多様な学び方を伝えることはできるのではないかと

3

## 第3回 「中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方」

実施日程	10月25日（水）15:30～17:30
場所	長野県立松本県ヶ丘高等学校 LL教室
参加者 計：38名	・信州学び円卓会議委員3名 徳永委員、荒井委員、畠山委員 ・一般参加者35名（中学生、高校生、保護者、中学校教員、高校教員等）

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

中学・高校における理想と課題について意見交換をしました

柔軟な教育課程の運用	・学校は自分の「好き」を突き詰められる場所。普通の授業もいいけど、人それぞれの夢とか将来に合った授業を取り入れてほしい
学習内容の柔軟化、主体的に参加できる学習指導	・英語のコミュニケーションに不安があるので、もっと実践的な授業を増やしてほしい ・一方的な授業がつまらない
入試で問う学力の柔軟化	・受験と探究活動が両立しない ・現場に求められる授業と入試で必要になる学習内容のギャップがある
学習環境の充実	・生徒と先生がじっくり話せる環境が重要 ・失敗が許容される環境が欲しい、失敗によって自分を知ることができる ・探究活動に使える設備や道具を充実させてほしい
教員の業務量削減、ゆとり創出	・教材研究をもっとやりたいが、その時間が確保できない ・教員の労働時間を伸ばしているのは部活だと思ふ。生徒としても申し訳なく感じてしまう
主体的に学ぶための環境づくり、校則の緩和	・教員も生徒も忙しいので時間が欲しい ・生徒が自分らしくいられる場所、時間を学校が確保することが大事 ・校則が厳しく、実用的じゃない。そもそも校則はなぜあるのか

4

## 第4回 「教員の理想とする、これからの長野県での学びとは」

実施日程	11月14日（火）15:00～16:30
場所	信濃教育会館 講堂
参加者 計：28名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州学び円卓会議委員3名 武田委員、畠山委員、三木委員</li> <li>・長野県知事 阿部 守一</li> <li>・一般参加者24名（教員、その他教育関係者等）</li> </ul>

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

教員の考える学びの理想と課題について意見交換をしました

遊ぶように楽しめる学びをつくる

- ・子どもも教師も遊ぶように楽しむ学びをととても大事にしていかなければいけない
- ・子どもの学びは、目的意識を持って楽しみながら自分のために取り組むことが重要

一人ひとりの子どもを起点とした学びの支援を行う

- ・子どもたちの実態にあった学びと教材を結びつけて授業を行うことが大切
- ・目の前にいる子どもたちそれぞれに合った学びがある
- ・生徒が自ら教員や学ぶ内容を選択できる自由
- ・大人が思う理想の子どもを強要するのではなく、そのままの自分を肯定し、受け止めてもらえるという経験が子どもの自己肯定感の向上につながる

教員が主体性を発揮しやすい環境をつくる

- ・新しいものを取り入れるときどうしても抵抗する雰囲気はある
- ・子どもに伴走して学びに導くことができる教員の不足
- ・学習指導要領に縛られすぎている

教員の働き方改革、時間・余白の捻出

- ・授業づくり、教材研究をする時間が正直ない
- ・PTAとの会議が6時半以降で、働き方改革的に言うところ逆行している
- ・地域とのパイプ役となる中堅の教員が特にへき地の学校で必要

保護者との対等な関係づくり、学校教員への寛容さを高める

- ・匿名で様々な主張ができる時代になり、外部からの意見が増えることで教員が怯え、できることが狭まってくる。
- ・学校や教員が挑戦することに対し、寛容な社会づくりが必要

受験や評価のための学びからの脱却

- ・子どもの「やりたい」からスタートする学びと受験の学力がリンクしきれていない
- ・本来は学び自体を楽しんでほしいのに、評価のための学びになっている

5

## 第5回 「私たちが考える理想の「学びの環境」とは」

実施日程	12月6日（水）13:30～15:30
場所	軽井沢風越学園
参加者 計：48名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州学び円卓会議委員5名 岩瀬委員、荒井委員、浦野委員、徳永委員、畠山委員</li> <li>・一般参加者43名（風越学園の子ども、教員その他の教育関係者等）</li> </ul>

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

長野県で広がってほしい環境、私たちがチャレンジしたいことについて意見交換をしました

様々な人やものとの出会い、実際に触れて学ぶことができる環境

- ・学校という敷地の枠がなくてもいいと思う。博物館に行きたければ、「今日は博物館に行く」でもいいと思う
- ・多様な世代や様々な人が交じり合う場をつくることで互いに生き方が学べる

安心安全で自分を受け止めてもらえる環境

- ・どんな意見もいったん聞いてくれる、否定されない、大事にもらえる全肯定の大切さ
- ・思ったことをなんでも言ってOK、安心安全の場所

やってみたいことに挑戦でき、何度でも失敗できる環境

- ・やりたいことは何でもできる、やりたかったらいくらでも進める
- ・色んなことを経験できる、やっぱりやめた、ということができて、失敗できる

比較が生じない環境

- ・何か学びをするときに、自分のペースで学んでいける。誰かと比べられるのではなく、自分と向き合える
- ・違うことが当たり前環境だと「成績がどう」とか「足が速い」とか比較が生じない

適度なルール、大人と子どものフラットな関係性

- ・適度なルールは必要、ルールがなさすぎると無法地帯に
- ・子どもと大人が張り合わない関係、先生・子どもという立場に縛られない環境がいい
- ・上下関係があんまりない、子どもも作り手という感覚

自分の「得意」がより評価される高校入試

- ・得意な分野で評価される高校入試。行きたい学校に自分の得意分野で勝負したい
- ・学校を探す時、学力よりも「何を学んだ？」を見てくれる入試がいいな
- ・一人ひとりがいきいきとできるような評価基準ができればいい

6

## 第6回 「教員の魅力と私たちの考える教育の未来」

実施日程	1月17日（水）15:00～17:00
場所	信州大学教育学部 N301教室
参加者 計：42名	・信州学び円卓会議委員3名 村松委員、荒井委員、畠山委員 ・長野県知事 阿部 守一 ・一般参加者38名（信州大学学生、大学院生、教員その他の教育関係者等）

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

教員や教育、学びの理想と課題について意見交換しました

子どもを縛らず、自由に学ぶことを尊重する

- ・子ども中心で、子どもが好きでやれる環境をつくってあげる
- ・自由と自治・自主の学び、子どもがやりたい事をやれる学校

子どもを第一に考え、新しいことに挑戦し・学び・成長し続ける教員

- ・子どもたちと共に学び成長する教師
- ・子どもの未来を考えて必要な経験をさせてあげられる教員
- ・学生のうちからいろいろな経験を積めるとよい

教員の余白を確保する

- ・先生に余裕がない。もっと先生が自由になって楽しむことで子どもにいい影響がある
- ・集団として働きすぎ、教師に余白があるといい

入試や評価のための学びからの脱却

- ・学び自体に楽しさや喜びがある中で、入試で点を取るための学びになってしまいがち
- ・国語、古典の面白さをもっと深く伝えたいのに「入試のため」になってしまう
- ・自分の強みが活かせる入試制度が必要

教員の職業イメージ向上

- ・周囲の人に応援してもらいたい、「教師になりたい」と言うとき色んな大人に止めておいたら大変だよと言われてしまう
- ・学校現場の大変さを伝えすぎると教職離れがすすむのでは

学校と学校外の相互理解・連携推進

- ・学生が気軽に学校に入れるシステムがあるとよい
- ・保護者の要求も様々、入試に受かるようにして欲しいという声もあれば、学びの楽しさを伝えてほしいという声も。学校と一緒に保護者もアップデートできると良い

教員が新しいことに挑戦しやすくする

- ・教員がチャレンジしたいことを受け入れる
- ・自分が過去受けてきた教育からの脱却
- ・初任者であることに不安がある。やりたいことがあるが、どうしたら初任者の壁を越えられるか

7

### 県民意見交換会後にいただいた意見等

方法	ホームページ上の回答フォーム等により応募
回答数 計：4件	「次世代につづく中山間地域での学びづくりとは」：3件 「子どもの居場所と学びの継続について」：1件

### ◆主要意見（一部抜粋及び要約）

テーマ「次世代につづく中山間地域での学びづくりとは」に係る意見等

地域資源を活用した学びを生み出す

- ・大人や子どもでもやりたいことを考え、自然の中で様々な体験ができた
- ・暮らしの延長に自然があり、都会では得難い体験ができた

小規模校ならではの強みを活かす

- ・子どもが担う役割が多くなることで、自己を発揮する場面が増える
- ・少人数のため先生の対応が丁寧。興味のあることをより深めることができる。
- ・先生が一人ひとりの資質に合わせ、成長のための経験を考える機会を作ってくれた

学びにかかわる大人のリテラシー向上

- ・「村のための仕事」や「村を大切にする」など、村や地域の大人の意向が教育に入りすぎている
- ・教員ではない民間企業の人などが教育に介入していて不安

子どもを中心とした関係機関との連携推進

- ・山村留学の目的を地域の人にもっと理解してほしい

教員の確保、負担軽減

- ・専門性のある特別支援教育支援員や先生の確保が難しい
- ・村の行事に先生が駆り出されている。負担を減らしていく必要がある

中山間地域の学習資源、機会、交友関係の少なさ

- ・少人数のため様々な意見や考えに触れる機会が少ない
- ・もっとたくさんの本が身近にあるといい
- ・学校や家庭以外の居場所や行き場がない

テーマ「子どもの居場所と学びの継続について」に係る意見等

多様な学びのあり方

- ・「不登校に対する理解」を広げていくための活動推進
- ・当事者である「子ども」や「保護者」の声を反映するための仕組みづくり
- ・パウチャー制度を含む、「当事者への直接支援」の検討
- ・県公立高等学校における「入学者選抜制度」の見直し
- ・「不登校問題を専門に議論する会議」の設置

8